

平成30年度 独創的研究助成費 実績報告書

平成31年 3月 28日

報告者	学科名	造形デザイン学科	職名	准教授	氏名	山下 万吉
研究課題	岡山県立大学附属図書館における映像プロモーションの活用とその効果について					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	山下 万吉	デザイン学部・准教授	映像デザイン	全体計画管理・実施	
	分担者	西山 賢雄 田中 智子	附属図書館・総括副参事 県大附属図書館・主事		図書館側対応・アドバイザー — 図書館側対応・アドバイザー —	
研究実績の概要	<p>本研究では<県大附属図書館における映像プロモーションの活用とその効果について検証・考察すること>を目的としている。図書館情報の学生への周知の効率化、図書館利用の増加に繋がるプロモーション映像の演出について、学生とともに検討し、学生目線での映像を制作し、図書館内等で公開することを目標とした。</p> <p>また、既存のビデオカメラ及び周辺機器による撮影ではなく、スマホ（iPhone）等を用いた簡易の撮影体制の構築について検討することも目的としている。可能な限り軽微で小回りが利く機材を用いることで、大学内における様々な他行事での映像撮影に転用できるのではないかと考えた。</p>					

※ 次ページに続く

研究実績
の概要

本研究は次の計画で進めた。

平成 30 年度：図書館へのリサーチ、映像の内容検討、映像制作

平成 31 年度：図書館での映像の設置、Web での映像の公開、
映像設置による図書館への影響・効果の検証、
映像のブラッシュアップおよび追加制作

平成 30 年度は、学生 3 名と共同で図書館職員へのリサーチを行い、学生目線での問題点や魅力を再発見する。その情報をもとに、必要な映像とその演出方法について検討し、映像制作を進めた。

<実施内容について>

8 月：図書館への取材 → 9～10 月：映像の内容検討 → 11 月：撮影 → 3 月：撮影～編集

<プロモーション映像について>

視聴主対象を本学の学生とし、以下の 2 本について映像制作を検討した。

① プロモーションムービー風

県大図書館の魅力的な見せ方を考慮しながら撮影する。合間に館内施設やサービスの簡単な紹介を入れた映像。公開方法として、エントランスに設置している BIG PAD で上映、館内カウンターに iPad を設置し上映、本学 Youtube チャンネルにて公開を検討していたため、立ち止まって視聴可能な長さとして、映像の尺は 3 分程度と設定した。

② ドラマ風

図書館のイメージアップを狙ったドラマ風の映像を企画。内容はくある少年が自由研究の調べ物をするため県大図書館に行く。そこで司書の手伝いをしている県大生のお兄さんと出会い、本や図書館の面白さについて触れる。成長し大学生となった少年が再び図書館を訪れ、司書になったお兄さんと再び出会う。>

①については 2 本の映像を制作。図書館内の様子をジンバルを用いた 1 カット撮影したものと、当初検討していたプロモーションムービー風の 2 本を制作した。なお 2 本目については 3 月末までに第一編集完了の予定である。②については、キャスティングやスケジュールの調整、スマホでの動画音声収録の困難さの都合で企画段階に留まった。

<スマホ (iPhone) による撮影体制について>

iPhone 及び周辺機器 (広角レンズ、ジンバル、簡易の LED 照明等) による撮影体制は、既存のビデオカメラによる撮影体制よりは軽微となり、動きやすさは向上した。しかし結果として、スマホ撮影とビデオカメラ撮影の違いが浮き彫りになった。使用するレンズや撮影用アプリによって、画角や画質が大きく変わる。また、既存のビデオカメラとの大きな違いは、(構図やアングルを) “作る” スタイルの撮影ではなく、“探す” スタイルの撮影に向いているということである。

<今後について>

平成 31 年度では制作した映像を図書館に設置し、図書館利用者の目に触れるよう公開する予定である。また、大学公式 Youtube チャンネルへの公開も実施する。